

も労力も多くかけてこそ成果が出ます。その診療には家庭・医療・学校に対する広い視野や柔軟な考え方が必要です。私の引越し遍歴と講師歴（看護師・ST・PT・OT・視能訓練士・保育士・栄養士の養成）、3人の子ども（現高校～大学）を自ら育てた経験、転校歴（3児とも小中学で5～7回）などが全て、今に活かされています。自分の欠点であるADHD傾向さえ、集中力・バイタリティ、患者さんの理解と代弁に於いて、利点になっています。人生に無駄はひとつも無いものです。

29年前の入試面接で、永盛・平山両教授に「僻地医療云々」と方便を語った私は、結局、無縁だったはずのそこに浸かっていて・・・「嘘はつけないな」と思いつつ、片道60kmの通勤もヒトカラしながら楽しく続けています。卒後23年、まだまだ進化し続けますよ。

凡夫の思い

那覇市立病院 産婦人科 當間 敬

6期のみなさん、ご無沙汰しています。當間です。私は今那覇市立病院産婦人科へ勤務しています。卒業後は琉大産婦人科医局へ入局し平成18年より現職となります。その間県立那覇病院（現南部医療センター）、県立八重山病院、沖縄赤十字病院勤務を経てきました。生来人見知り激しくあまり人付き合いも得意ではない性格なので卒業後は同窓会へも参加せずひきこもっていました（皆さんすいませんでした）。このまま静かに生きていこうと思っていたところへ同期の長濱先生（現在同じ職場です）から急に「たかしー、(崎間)敦から電話」とPHSを渡されあれよあれよという間に南風に投稿する事が決定しました。決まった以上はやるしかないと決め今日ここに書かせて頂いています（長濱先生有り難うございました）。

さて思い切って引き受けたものの何について書こうか迷いましたが（長濱先生からはおれは書いたけどたかしーはまだか？と毎日のようにプレッシャーをかけてもらいました）今回は最近あった学会での講演会を聞いて感じた事を書かせて頂きます。講演者は皆さんご存知あのiPS細胞の山中伸弥先生でした。メディア等では断片的な面しか伝わってきませんが、直接お話を聞かせて頂いたのは初めてでした。内容はすばらしい業績につい

てはもちろんですが、私が一番衝撃を受けたのは今後のビジョンについての事でした。先生はiPS細胞の臨床応用はもちろんですが、それ以上に力を入れて行きたいのはiPS細胞を応用した創薬にも取り組んでいきたいとのことでした。それだけならあまり驚く事はなかったのですが、その方法というのが製薬会社と直接組んで創薬を目指すというものでした。私は今まで医者と製薬会社との関係に対してはあまり良いイメージを抱いておらず、どちらかというとな冷やかな目で見えておりましたが、それを聞いて始めは少しがっかりしましたが、最後まで聞いて色々考えてしまいました。山中先生は病気に苦しむ患者さんが新しい治療薬の恩恵をうけるためには最終的にはどうしても大きな製薬会社の力が必要である事。欧米では研究成果と製薬会社の橋渡しとしてベンチャー企業が機能しているが日本ではそれがまだである事。そこで日本型の製薬モデルとして直接製薬会社と提携して創薬を目指す事。以上をお話されました。先生のお考えは私の狭い見よりも最終的に患者さんへ対して最速で最大の利益を供せる事を目的とされているのではないかと感じました。私の拙い文章力では先生のお考えを皆さんに充分にお伝えできずに大変申し訳なく思っています。私が言いたい事は物事は一つの考え方だけでないと言う事です。同じ物事でも全く違う考え方もあり得ます。どれが正しくてどれが間違っているという訳ではなくどちらもあり得ると言う事です。ただそれで納得が行くかどうかはまた別問題です。それに対しどのように対峙していくのかは今後の私の課題です。以上まとまりがなく近況報告にはほど遠い内容となってしまいました。最後に6期のユーレイ評議員(殆ど活動しておりませんでした。皆さんすいませんでした)であった私を見かねて代わりに快く評議員を引き受けてくださった長濱さん。本当に有り難うございます。今後は一卒業生として微力ながらご協力させていただきます。また6期のみなさんといつかまた再会する日をお待ちしています。それまでどうぞお体を御自愛下さい。ではまた！

